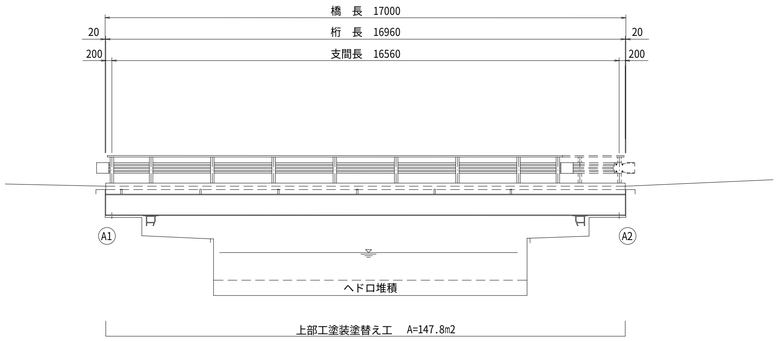
源 緑 橋 修繕工一般図

側 面 図

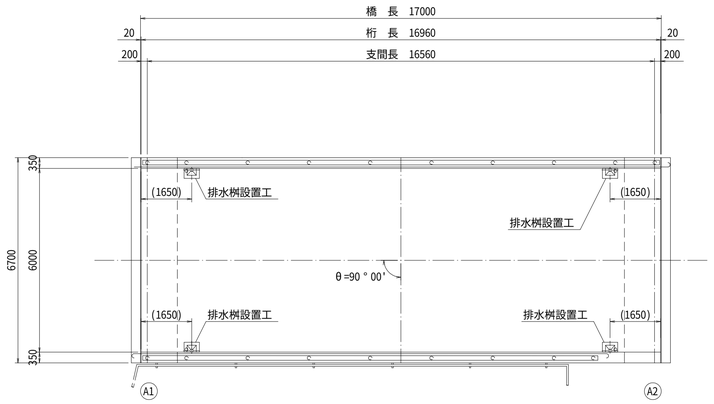
S=1:100



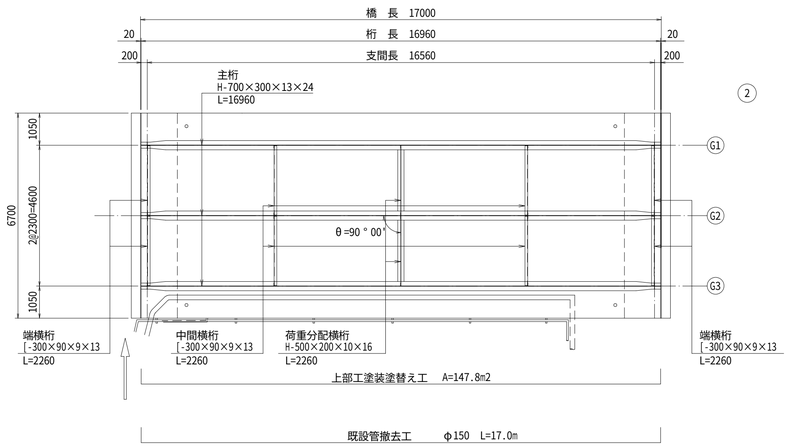
平 面 図

S=1:100

上 面

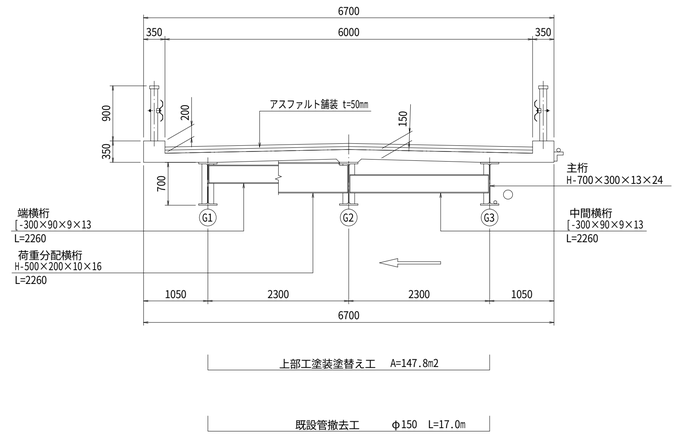


下 面



断 面 図

S=1:50



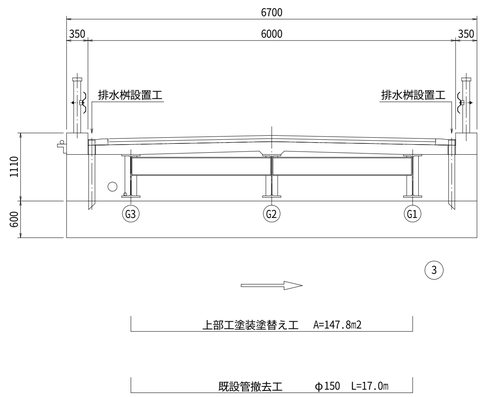
設計条件

上部工	橋 格	1等橋(TL-20)
	上部工形式	単純鋼H桁
	橋 長	17.000m
	桁 長	16.960m
	支 間 長	16.560m
	全 幅 員	6.700m
	有効幅員	6.000m
	斜 角	90°00'
	床 版	t=150
	舗 装	アスファルト舗装 t=50
	支 承	線支承
下部工	橋 台	重力式
	基 礎	既成RC杭

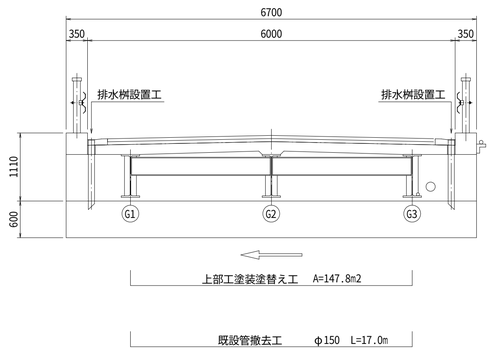
正 面 図

S=1:50

A1橋台



A2橋台



注記 1)：各種修復においては、施工前に詳細調査を行い、施工位置・寸法を確認すること。
施工位置・寸法が現状と不適合と判断される場合においては、別途監督員と協議をすること。

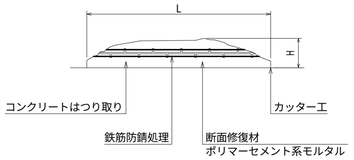
2)：本橋梁の塗膜は、低濃度PCBを含有しているため、既存塗膜を除去する際には
作業員のばく露対策や周辺環境の汚染対策を行うこと。

3)：各種修復においては、既設鉄筋を切断しないようにすること。

工事名	町道源緑・中和泉線 源緑橋橋梁修繕工事		
図面名	修繕工一般図		
年月日			
尺 度	図 示	図面番号	5 葉之内 1
会社名			
事務所名	木曽岬町役場 建設課		

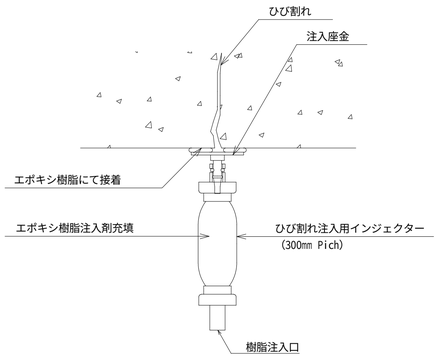
修繕工詳細図(1)

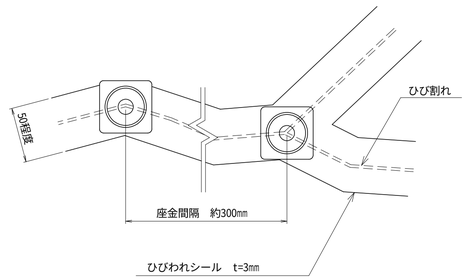
断面修復工詳細図



※ 断面修復については補修箇所の周囲にコンクリートカッターを使用すること。
なお、コンクリートカッター使用時に鉄筋を切断しないようにすること。
※ 断面損傷部の補修においては、施工前に詳細調査を行い、施工位置・寸法を確認すること。
施工位置・寸法が現状と不適合と判断される場合においては、別途監督員と協議をすること。
※ 鉄筋防錆処理について
カップワイヤー等で十分に鉄筋をケレンした後、水洗いを行い下地及び鉄筋を清掃する。
防錆材は鉄筋に均一に塗布する。

ひび割れ補修工詳細図
(ひび割れ注入工)





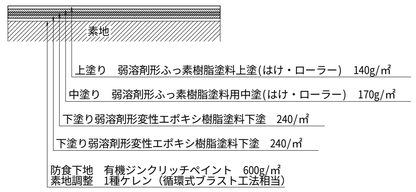
※ シール厚さは、約3mm程度とする。

※ ひび割れ部の補修においては、施工前に詳細調査を行い、施工位置・寸法を確認すること。
施工位置・寸法が現状と不適合と判断される場合においては、別途監督員と協議をすること。

塗装塗替工詳細図

【RC-Ⅰ塗装系：参考】

塗装工程		仕　　様	使用量	塗膜厚さ
1	塗膜除去	循環式ブラスト工法相当		
2	素地調整	1種ケレン		
3	防食下地	有機ジンクリッチペイント	600g/㎡	75μm
4	下塗り	弱溶剤形変性エポキシ樹脂塗料下塗	240g/㎡	60μm
5	下塗り	弱溶剤形変性エポキシ樹脂塗料下塗	240g/㎡	60μm
6	中塗り	弱溶剤形ふっ素樹脂塗料用中塗	170g/㎡	30μm
7	上塗り	弱溶剤形ふっ素樹脂塗料上塗	140g/㎡	25μm



① 塗膜除去
※1 塗膜除去は、循環式ブラスト工法（NETIS KT-230028-A）と同等の工法により施工すること。
別工法により施工を行う場合は、別途監督員と協議すること。
※2 塗膜除去後の鋼材表面にPCBの残留が無いことを試験等により確認すること。

② 素地調整
※1 素地調整は、鋼材素地を完全に露出させること。

注記 1)：各種修復においては、施工前に詳細調査を行い、施工位置・寸法を確認すること。
施工位置・寸法が現状と不適合と判断される場合においては、別途監督員と協議をすること。
2)：本橋梁の塗膜は、低濃度PCBを含有しているため、既存塗膜を除去する際には
作業員のばく露対策や周辺環境の汚染対策を行うこと。
3)：各種修復においては、既設鉄筋を切断しないようにすること。

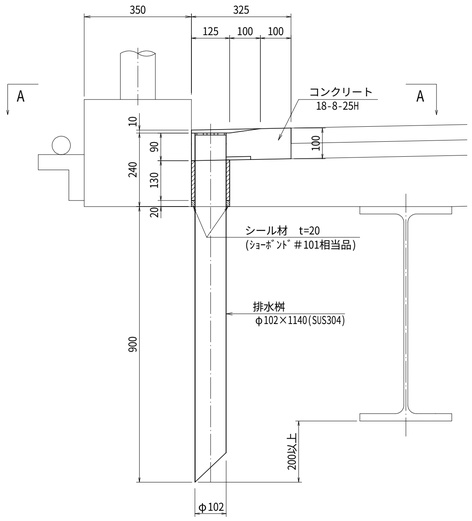
工事名	町道源緑・中和泉線 源緑橋橋梁修繕工事		
図面名	修繕工一般図(1)		
年月日			
尺　度	図　示	図面番号	5 葉之内 2
会社名			
事務所名	木曽岬町役場　建設課		

修繕工詳細図(2)

排水桝設置工

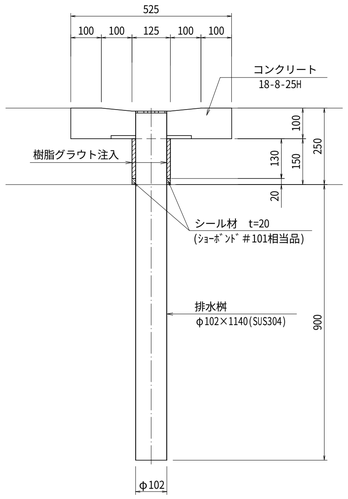
S=1:10

断 面 図



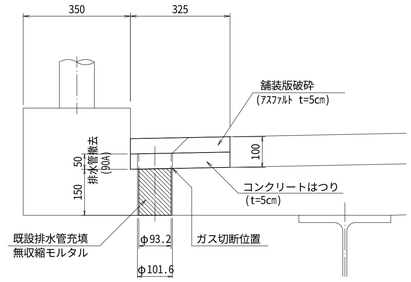
※コンクリートの打設面は粗面にすること。

B - B



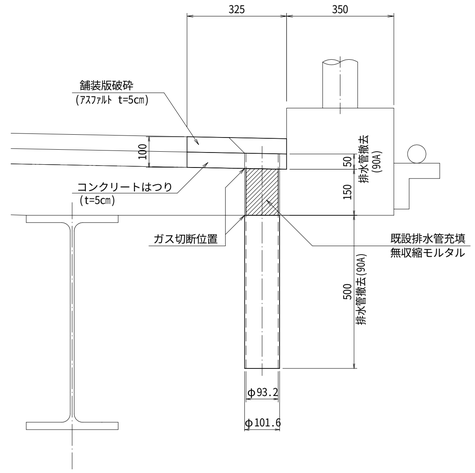
既設排水管撤去詳細図 (A1橋台下流側)

S=1:10



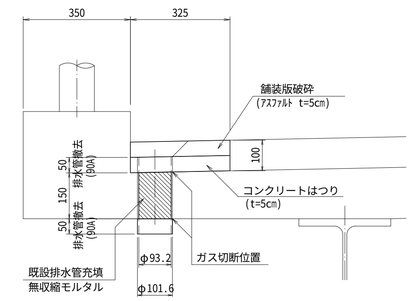
既設排水管撤去詳細図 (A1橋台上流側)

S=1:10



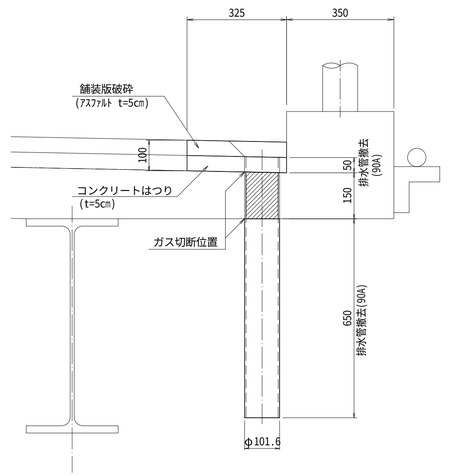
既設排水管撤去詳細図 (A2橋台下流側)

S=1:10

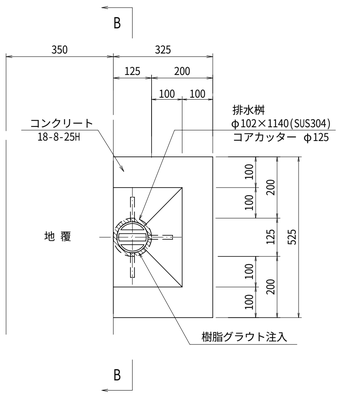


既設排水管撤去詳細図 (A2橋台上流側)

S=1:10

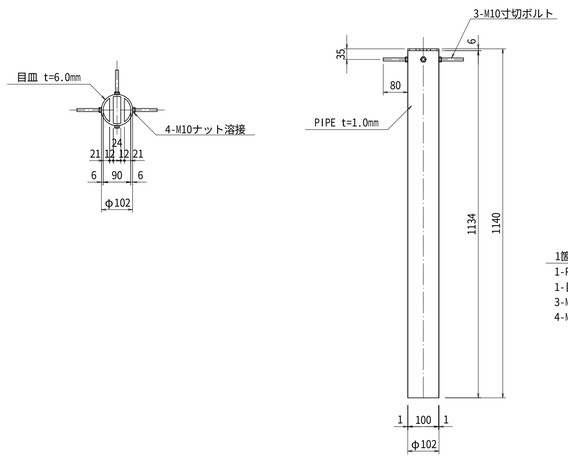


A - A



排水桝詳細図

TSDR-MH相当品 S=1:10



1箇所当り
1-Pipe φ102×1134(SUS304)
1-目皿(SUS304)
3-M10×80寸切ボルト(SUS304)
4-M10ナット(SUS304)

※1)t=2.0mm未満のステンレス鋼材溶接部内外面に対し、
耐食性向上の措置を講じること。
2)管の斜切りについては、地覆側が低くなるように
排水桝を製作すること(断面図参照)。
3)施工にあたっては、事前に鉄筋探査を行い鉄筋を切断
しないようにすること。

注記 1)：各種修復においては、施工前に詳細調査を行い、施工位置・寸法を確認すること。
施工位置・寸法が現状と不適合と判断される場合においては、別途監督員と協議をすること。

2)：本橋梁の塗膜は、低濃度PCBを含有しているため、既存塗膜を除去する際には
作業員のばく露対策や周辺環境の汚染対策を行うこと。

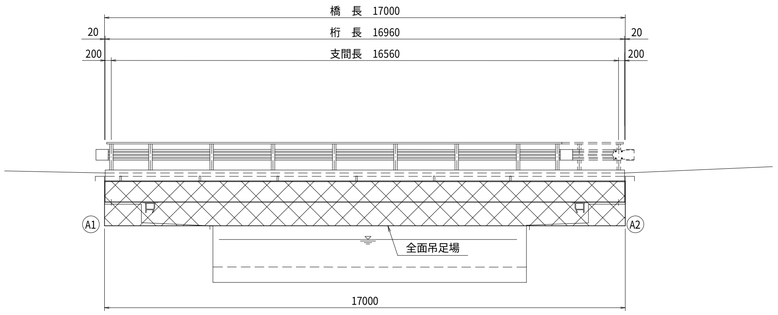
3)：各種修復においては、既設鉄筋を切断しないようにすること。

工事名	町道源緑・中和泉線 源緑橋橋梁修繕工事		
図面名	修繕工一般図(2)		
年月日			
尺度	図 示	図面番号	5 葉之内 3
会社名			
事務所名	木曽岬町役場 建設課		

仮設足場工　参考図

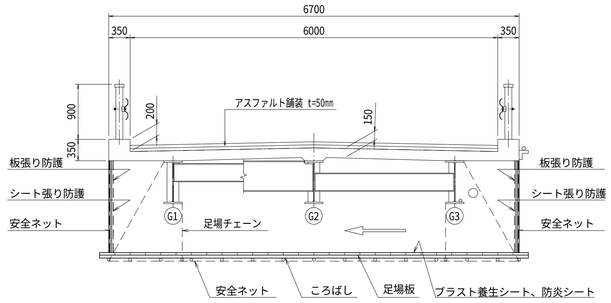
側　面　図

S=1:100



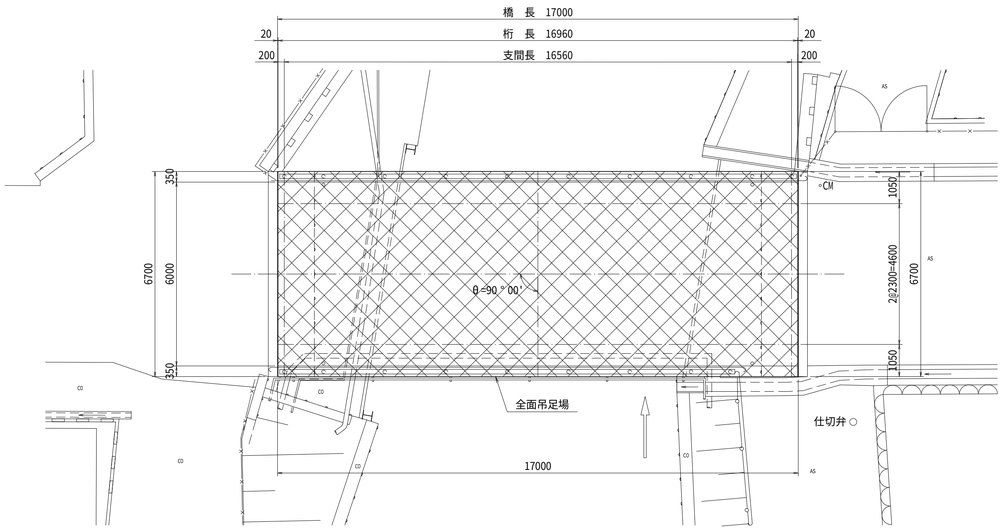
断　面　図

S=1:50



平　面　図

S=1:100

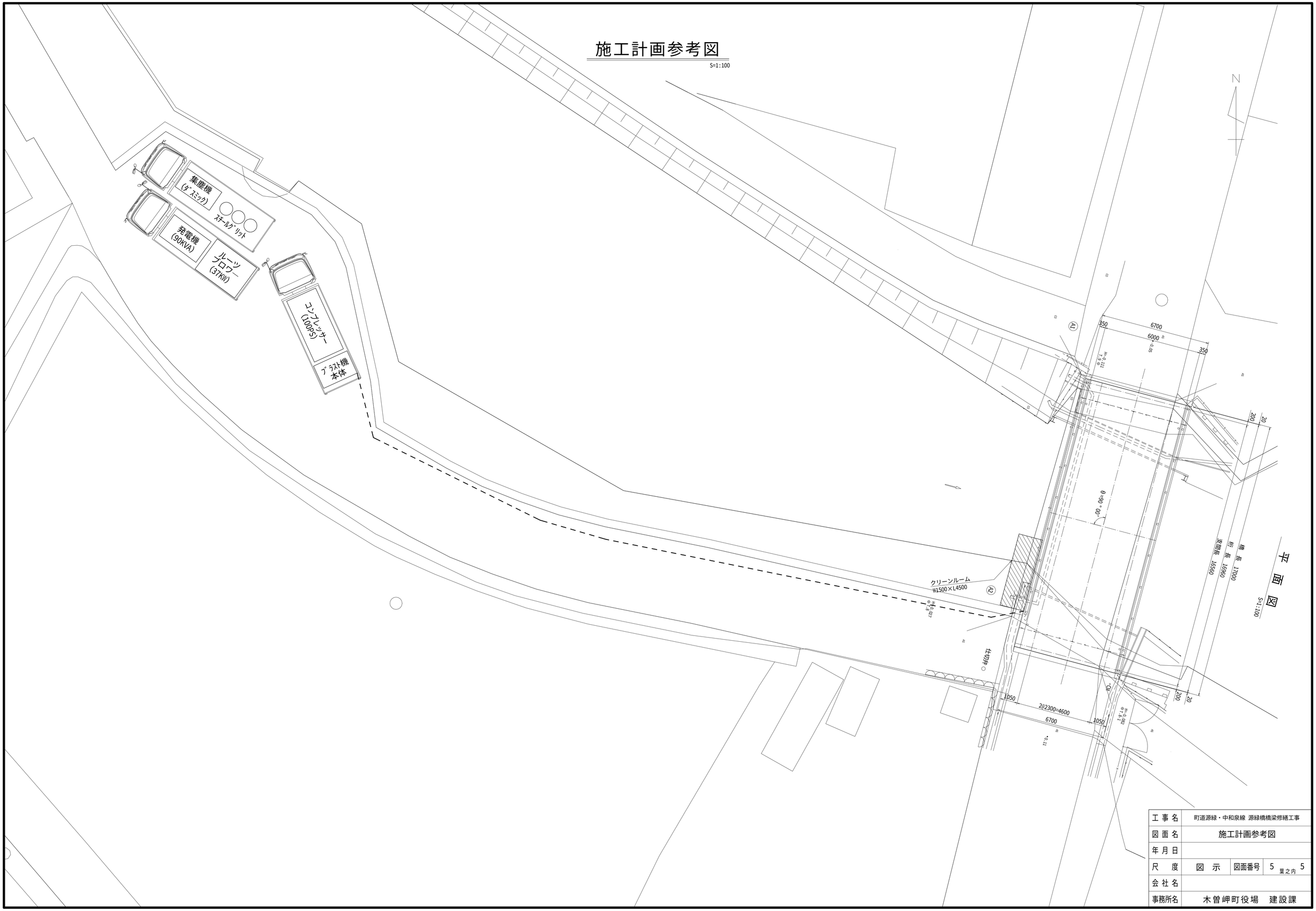


注記 1)：各種修復においては、施工前に詳細調査を行い、施工位置・寸法を確認すること。
施工位置・寸法が現状と不適合と判断される場合においては、別途監督員と協議をすること。

2)：本橋梁の塗膜は、低濃度PCBを含有しているため、既存塗膜を除去する際には
作業員のばく露対策や周辺環境の汚染対策を行うこと。

3)：各種修復においては、既設鉄筋を切断しないようにすること。

工事名	町道源緑・中和泉線 源緑橋橋梁修繕工事		
図面名	仮設足場工 参考図		
年月日			
尺　度	図　示	図面番号	5 葉之内 4
会社名			
事務所名	木曽岬町役場　建設課		

施工計画参考図

S=1:100